

ヤコブ、石柱を立てる

キー・ヴァース「翌朝早く、ヤコブは頭の下に置いた石を取り、柱として立て、その上に油を注いだ。彼はその場所をベテルと呼んだ。

厳選された聖典
創世記28:10-22

今日の重要な箇所は、悲惨な状況に対する肯定的な結果を示している。ヤコブは兄エサウの前から逃げ出した。兄がイサクの祝福を奪ったことを知ったエサウは、殺意を抱いたという。彼は内心の復讐の思いを大声で口にした。イサクの家族の何人かがそれを聞き、報告した。状況を知ったレベッカは、ヤコブにパダン・アラムにいる兄ラバンのところへ行き、そこでおそらく妻を見つけるように勧めた。

レベッカは、ヤコブに代わって主の御心が行われることを望んでいた。エサウに祝福を与えようとするイサクの意図を知った彼女は、ヤコブと次のような会話を始めた。さあ、息子よ、私の言うとおりにしなさい。さあ、息子よ、私の言うとおりにしなさい

。群れのところへ行って、
、立派な若いヤギを二頭連れてきなさい。そのヤギを使って、父上の好物を用意しよう。そして、その料理をお父さんのところに持って行き、お父さんが死ぬ前に食べて、あなたを祝福するようにしなさい。
。"創世記27:8-10

ヤコブは母に答えた。「兄のエサウは毛深い人ですが、私の肌はつるつるです。父に触られたらどうしよう。父は、私が父をだまそうとしているのを見て、私を祝福する代わりに呪うでしょう」。

しかし母親はこう答えた！私の言うとおりにしなさい。私のために、外に出て、やぎを取ってきなさい！」11-13節

怠惰な言葉はしばしば悪い実を結ぶ。リベカはヤコブにこう言った。彼女はヤコブに二度と会うことはなかった。

ヤコブはベエルシバから逃げる途中、ある場所に来て、日暮れが近づいたので、眠りにつき、夢を見た。"彼はある所に来て、日が沈んだので、一晩中そこにいた。そして、その場所の石を一つ取って頭に置き、その場所に横になって眠った。すると彼は夢

を見た。見よ、地の上に梯子が立てられ、その頂は天まで伸びていた。"そこに神の天使たちが上り下りをしていました。創世記28:11,12

彼の夢の中で、神は梯子の上に立ち、こう言われた：「わたしはあなたの父アブラハムとイサクの神、主なる神である。あなたの子孫は地のちりのようになり、西にも東にも、北にも南にも広がり、あなたとあなたの子孫によって、地のすべての家族が祝福される。見よ、わたしはあなたとともにいて、あなたを守る」13-15節

ヤコブは、神が自分に対する偉大なアブラハムの約束を確証しておられることを認識し、枕に使っていた石を取り、それを祭壇として据えた。彼はそれに油を注ぎ、その場所を "神の家" を意味するベテルと名づけた。私たちクリスチャンは、私たちの希望と夢の土台となる油を注がれた石を持っているだろうか？確かに、私たちにはある。それは油注がれたイエスであり、私たちの信仰の岩である。